

支援センター名	秋穂町体験活動ボランティア活動支援センター	
所在地	〒754-1101 山口県吉敷郡秋穂町東6713 (秋穂町中央公民館内)	
連絡先	Tel 083-984-2132	Fax 同左

事業の概要とポイント

公民館自主講座の秋穂町国際サークルという団体があり、その代表者の方から子どもたちと何か活動ができないかと相談があったので、企画について助言をした。また、子どもたちから外国の方と一緒に遊んでみたいとの要望があったので、山口大学の留学生を招いて、子どもたちとの交流会を計画した。

関係した学校・団体名称

秋穂小学校、大海小学校、秋穂町国際交流サークル、山口大学留学生

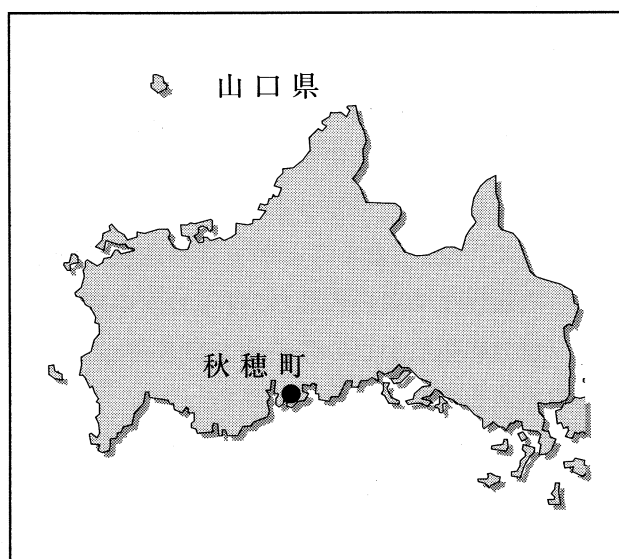
地域の現況・特色

活動対象地域の秋穂町の人口は8,097人である。

秋穂町は、山口県の南部、瀬戸内海のほぼ中央、吉敷郡の東南端に位置している。南は周防灘に望み、東は防府市、西及び北は山口市に接している。本町の総面積は24.09km²で、東西の最大幅6.3km、南北の最大長7.3kmとなっており、海岸線の総延長は、25.2kmに及んでいる。

瀬戸内海に突出した本町の形は、5本の指を開いた格好の半島状をしており、北境に亀尾山がそびえ、南に向かって経納山、日地山、小浜山を起し、他の一つは、串山連峰、筈倉山と続き、一度海中に没し、2km南に竹島となって現れ、この主脈は、本町を東西に地図二分している。本町の37%は山地であり、平坦地は大部分が開作されたところである。

学校は、小学校2校・中学校1校で、合計約600人の児童生徒数である。完全学校5日制がスタートし、家庭・学校・地域が連携した子どもの活動の受け皿づくりを進めているところである。



企画から活動までの経緯

- 9月6日 国際交流サークル方から、サークル活動の一環で子どもたちと一緒に何か活動はできないだろうかとの相談を受けた。
- 9月7日 農家の方を訪ね、芋畑の提供をお願いした。
- 9月9日 国際交流サークルの代表の方と、プログラムについて検討し、留学生と一緒に芋掘りと餅つきなどを企画した。
- 9月10日 国際交流サークルの代表の方とコーディネーターと一緒に、学校を訪問して、企画の内容説明と児童生徒への募集案内のちらしの配布と回収をお願いした。
- 9月20日 国際交流サークルの会議を開き、当日の役割分担など確認した。
- 10月1日 山口大学留学生に参加の依頼をした。
- 10月2日 秋穂町ALTの方に参加依頼をしたところ、快く承諾していただいた。
- 10月3日 国際交流サークルの会議を開き、準備物の確認をした。
- 10月5日 秋穂町内の子どもや保護者、留学生・ALT・国際交流サークルで計130名（写真1）が参加し「みんなともだち大地の恵みin・AIO」を開催した。
- 10月6日 国際交流サークルの会議を開き、回収したアンケートの集計をし、改善点などの反省点を話し合った。

事業の展開内容（特色など）

- ・秋穂町の国際交流サークルは、平成2年度に外国人英語指導助手派遣事業と同時に秋穂町中央公民館の生涯学習の一環として活動を開始した。活動内容としては、毎月2回の定例会のほか、小学生と保護者を対象にした国際交流事業や地域行事での勉強発表会などを行っている。
- ・秋穂町ALTは、3校の小中学校で教えているので、子どもたちに大変親しまれている。子どもたちと話していると、「もっと、先生と遊びたい」という声がよく聞かれていた。コーディネーターとして、ALTと遊ぶことができる体験活動を考えていた。
- ・参加した留学生や県内のALTに自分の国の紹介をしてもらった。（写真2）また、名前ビンゴゲーム（自分の紙にお互いの名前を書き合っけてビンゴをする）をして、初めにみんながリラックスできるように配慮した。（写真3）
- ・農家の方から提供していただいた芋畑で、芋掘りをした。（写真4）ただ芋を掘るだけでなく、「いも重量コンテスト」「おもしろい形コンテスト」（写真5）を実施した。
- ・昼食は、事前に収穫しておいた芋を使って、天ぷら・お汁の用意をした。子ども向けのイベントで、「食べる」プログラムを準備しておく、参加者が多くなる傾向がある。
- ・留学生の方に、日本の文化を知ってもらおうと、餅つきも計画した。（写真6）初めて餅つきを体験した留学生が多かった。

企画する上でのポイント、留意点など

- ・コーディネーターは、子どもたちがどんな体験活動を希望しているのか把握しておく必要がある

る。そのためには、学校に出向き、総合的な学習の時間などの学習内容を知っておくことが大切である。

- ・子ども向けのイベントの場合には、学校側に目的や内容を明確に伝えておく必要がある。今回は、国際交流サークルの方とコーディネーターが学校を訪問し趣旨を説明した。学校側も主催者と話し合うことで、安心して子どもたちに参加の呼びかけをすることができた。

評 価

- ・実施後に参加者へアンケートをお願いした。もっと留学生の方とふれあう時間が欲しいとの参加者の声が出ていたので、国際交流サークルの方と修正点を話し合った。
- ・計画・準備等、秋穂町国際交流サークルが中心となって進めてきたが、今後もこのように体験活動をサポートしてくれる団体を育成しなければならぬ。また、団体のリストを作成しておくことで、何か活動をしたいとの相談があった場合、すぐに情報を提供することができる。
- ・体験活動をさせる上で、すべてこちらで準備するのではなく、子どもたちがともに汗を流す体験活動を仕組んでいきたい。そのために、コーディネーターとして主催者と事業の目的をしっかりと事前に確認しておかなければならないだろう。

【活動風景】



写真1

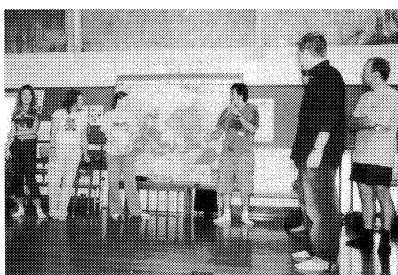


写真2

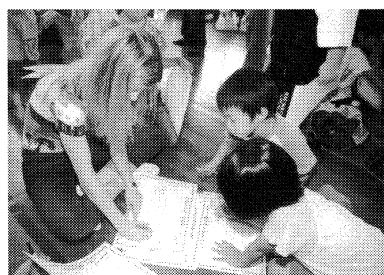


写真3



写真4



写真5



写真6